



# 大和多武峰

# 談山神社



## 国宝・重文指定の宝物

- |                   |                                      |
|-------------------|--------------------------------------|
| 【国宝】粟原寺三重塔伏鉢 1箇   | 【重文】薙刀（銘一）1口                         |
| 【重文】絹本着色大威徳明王像 1幅 | 【重文】金沃懸地文太刀 1口                       |
| 【重文】脇差（銘備州長船義景）1口 | 【重文】石燈籠（元徳3年刻銘）1基                    |
| 【重文】短刀（銘国俊）1口     | 【重文】摩尼輪塔（乾元2年刻銘）1基                   |
| 【重文】短刀（銘成繩）1口     | 【重文】本殿造営図並所用具図（永祿2年）<br>8舗4枚 附朱漆机 1基 |
| 【重文】太刀（銘吉平）1口     | 【重文】紺紙金泥法華経宝塔曼荼羅図 10幅                |
| 【重文】短刀（銘備中国住平忠）1口 |                                      |

## 重要文化財建造物

- |                           |                           |
|---------------------------|---------------------------|
| 【重文】本殿 大宝元年創建<br>嘉永3年造営   | 【重文】神廊拜所 白鳳8年創建<br>寛文8年修築 |
| 【重文】拝殿・楼門 永正17年造営         | 【重文】摂社・東殿 寛文8年創建          |
| 【重文】東西透廊 永正17年造営          | 【重文】末社総社本殿・拝殿 延長4年創建      |
| 【重文】権殿 天禄元年創建             | 【重文】末社・比叡神社 寛永4年造営        |
| 【重文】十三重塔 白鳳7年創建<br>享禄5年修築 | 【重文】宝庫二棟 江戸時代初期<br>元和5年造営 |
|                           | 【重文】閻伽井屋                  |

## 県・市指定文化財

- 【県指定】多武峰縁起絵巻 絹本（室町時代）4巻
- 【県指定】談山神社文書 中世～近代 約3,000点
- 【県指定】梵鐘 銘、元享3年（1320）1口
- 【県指定】石造一の大鳥居 享保9年再建（1724）1基
- 【県指定】東大門 享保3年建立（1803）1棟
- 【県指定】町石 承応3年建立（1654）32基
- 【市指定】薄墨桜（樹齢約600年）1本
- 【市指定】青白磁瀟文瓶（中国南宋～元時代）1口
- 【市指定】青白磁唐子蓮花唐草文瓶（中国南宋～元時代）1口

談山神社へは

西名阪自動車道 郡山 I.C. より約 22km      名阪国道 天理 I.C. より約 21km  
 南阪奈道路 葛城 I.C. より約 22km      名阪国道 針 I.C. より約 28km

### 電車&バス

- 桜井駅まで JR 奈良駅から JR 桜井駅まで JR 万葉まほろば線約 30 分  
京都駅から近鉄特急で「大和八木」のりかえ約 60 分  
大阪難波駅から「鶴橋」のりかえ近鉄大阪線急行で約 45 分  
名古屋駅から近鉄特急で「名張」または「大和八木」經由約 2 時間
- 近鉄・JR 桜井駅南口より 奈良交通バス約 25 分 終点・談山神社下車徒歩 5 分

## たんざん 談山神社

入山時間 8:30～16:30（最終受付） 入山拝観料 大人 500円 小学生 250円

〒633-0032 奈良県桜井市多武峰 319  
 TEL.0744-49-0001 / FAX.0744-49-0236

✉ info@tanzan.or.jp

<http://tanzan.or.jp>

🔍 談山神社 🔍



- |             |             |               |             |
|-------------|-------------|---------------|-------------|
| 1 《重文》 権 殿  | 6 《重文》 比叡神社 | 11 社務所        | 16 萬葉鎌足歌碑   |
| 2 《重文》 十三重塔 | 7 《重文》 閑伽井屋 | 12 西入山入口受付    | 17 神幸橋      |
| 3 《重文》 総社本殿 | 8 《重文》 西宝庫  | 13 車の祓所       | 18 登山口      |
| 4 《重文》 総社拝殿 | 9 授与所       | 14 祓戸社        | 19 スロープ     |
| 5 《重文》 神廟拝所 | 10 竜神社      | 15 超空〔折口信夫〕歌碑 | 20 足の弱い人コース |

※



# 談山神社境内周辺の御案内

- |             |             |              |        |
|-------------|-------------|--------------|--------|
| 21 《重文》 本殿  | 26 春日神社     | 31 《重文》 石灯籠  | 36 恋の道 |
| 22 《重文》 楼門  | 27 観音堂      | 32 灯籠ヶ辻      | 37 東大門 |
| 23 《重文》 拝殿  | 28 三天稲荷神社   | 33 《重文》 摩尼輪塔 |        |
| 24 《重文》 東宝庫 | 29 正面入山入口受付 | 34 峯の塔       |        |
| 25 《重文》 東殿  | 30 転輪法堂址    | 35 石段 140 段  |        |

# 御祭神 藤原鎌足公

## 談山神社由緒

飛鳥・法興寺で行われた蹴鞠会<sup>けまりえ</sup>において出会った中大兄皇子（後の天智天皇）と中臣鎌子（後の藤原鎌足）が、藤の花の盛りの頃、当社本殿裏山で極秘の談合をされました。

『多武峰縁起』によれば、「中大兄皇子、中臣鎌足連に言<sup>の</sup>て曰く。鞍作<sup>くらつくり</sup>（蘇我入鹿）の暴逆をいかにせん。願わくは奇策を陳べよと。中臣連、皇子を將<sup>ひき</sup>いて城東の倉橋山の峰に登り、藤花の下に撥乱反正の謀を談ず。」と記されています。この談合により、皇極天皇 4 年（645）飛鳥板蓋宮で蘇我入鹿を討ち、中央統一国家及び文治政治の完成という歴史的偉業を成し遂げられました。多武峰はこの後、談峯・談い山・談所が森と呼ばれるようになり「大化改新談合の地」の伝承が残りました。現在の社号の「談山神社」もここからきています。

天智天皇 8 年（669）10 月、鎌足公の病が重いと知った天皇は自ら病床を見舞い、後日、大織冠内大臣という人臣の最高位を授けられ、藤原の姓を与えました。藤原氏は、ここから始まります。鎌足公の没後、御墓は摂津国阿威山<sup>あゐ</sup>（現在の大阪府高槻市）に造られましたが、白鳳 7 年（678）唐より帰国した長男・定慧和尚が鎌足公の遺骨の一部を多武峯山頂に改葬し、十三重塔と講堂を建立して妙楽寺と称しました。さらに、大宝元年（701）方三丈の神殿を建て、鎌足公の御神像を安置しました。これが談山神社の始まりです。

## 法興寺の蹴鞠会

沓をとばした中大兄皇子を笑う入鹿。  
沓を皇子にささげる鎌足公



## 多武峰山中での談合 [本殿裏山]

向かって右が中大兄皇子。  
左が鎌足公

## 蘇我入鹿誅戮図

刀を振り上げているのが中大兄皇子。  
弓を持っているのが鎌足公



## 御本殿

江戸時代（重要文化財）

藤原鎌足公をお祀りする本殿は、もと聖霊院、大織冠社、多武峰社とも称し、三間社隅木入春日造のけんらん豪華な様式で知られています。

社殿全体は極彩色模様や、花鳥などの彫刻によって装飾されています。大宝元年（701）の創建で、現存は嘉永3年（1850）に建て替えられたものです。日光東照宮造営の際のお手本となったことでも有名です。



## 蹴鞠の庭

毎年4月29日（昭和の日）と11月3日（文化の日）、ここで「けまり祭」が行われています。

藤原鎌足公と中大兄皇子が飛鳥法興寺の蹴鞠会（けまりえ）で初めてお出合いになって「大化改新」の発端となった故事にちなんで行われています。飛鳥時代の雅びが感じられる祭です。



## 十三重塔

室町時代（重要文化財）

父・藤原鎌足の追福のために、長男・定慧と次男・不比等によって西暦678年に建立されました。現存の塔は、享禄5年（1532）の再建で、木造十三重塔としては、世界唯一のもので、唐の清涼山宝池院の塔を模して建てられたと伝えられています。高さは約17メートルあり、屋根は伝統的な檜皮葺きです。

神仏習合時代の名残であると同時に、談山神社のシンボリックな存在です。



## 東殿〔恋神社〕

江戸時代（重要文化財）

古来より、縁結びの信仰あった談山神社の境内には、いくつかの祈願場所が残っており、今でも祈願していただけます。

むすびの岩座は1300年以上も昔、談山神社の前身である妙楽寺の講堂を建てるとき、光る石が発見され、神の宿る磐座として祀られました。

縁結びはもとより、人間関係の結び神としてお参りください。



恋神社絵馬とえんむすび守



東殿〔恋神社〕



むすびの岩座



## 談い山

蘇我蝦夷と入鹿親子の勢力が極まり、国の政治をほしままにしていた頃、中臣鎌子（後の藤原鎌足公）は強い志を抱いて、国家の正しいあり方を考えていました。

飛鳥の法興寺（今の飛鳥寺）で蹴鞠会で中大兄皇子（後の天智天皇）に初めてまみえることができた鎌足公は、西暦645年の5月、多武峰の山中に登り、「大化改新」の談合を行いました。



## 権殿

室町時代（重要文化財）

天禄元年（970）摂政右大臣藤原伊尹の立願によって創建されました。現在のものは室町時代、永正年間に再建されたものです。当殿内では室町時代より延年舞や能が演じられ、「伝統と革新」の芸能を競いあってきました。

祭神はマダラ神（芸能・芸術、魔除け・厄払いの神）で、芸能、芸術にたずさわる人たちの守り神として、また上達を祈る場として崇拝されています。



権殿



マダラ神面

## 年間祭事暦抄

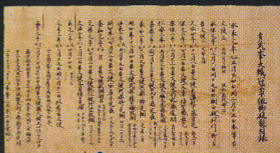
3月2日 曜日	八講祭	8月14日	献燈祭
4月2日 曜日	神幸祭	10月2日 曜日	嘉吉祭
4月29日	春の蹴鞠祭	11月3日	蹴鞠祭
6月4日 曜日	観音講祭	11月17日	例大祭
1月1日	元旦祭	6月30日	中臣大祓式〔夏越し〕
1月2日	神楽式	12月31日	中臣大祓式〔年越し〕
1月3日	福祿寿大神大祭		

祈禱殿では、毎日あらゆる種類のご祈禱をお受けしております。

# こはれつやま 御破裂山

古来より、天下に異変が生じる時には、御破裂山が鳴動し当社の御神像が破裂（亀裂）すると言い伝えられています。慶長12年（1607）の破裂の際、後陽成天皇の要望により広橋兼勝がこれまでのこれまでの御破裂記録を編纂しました。

当社に残されている「多武峯大織冠尊像御破裂目録」は江戸時代のもので奈良県指定文化財です。なお、大織冠尊像（たいしょくかんそんぞう）とは藤原鎌足公御神像のことです。



## ひやくみ おんじき 百味の御食

南北朝合一ののち永享7年（1435）、南朝の遺臣が多武峰に拠って兵を起こしたため、同10年（1438）8月、足利幕府の大軍がこれを攻め、兵火によって一山が焼失しました。

この兵火を避けて御神体を一時、飛鳥の橘寺に遷座しましたが、3年後の嘉吉元年（1441）9月にもとの多武峰に帰座しました。

寛正6年には勅使が派遣され、嘉吉元年の御神体奉還の日をもって祭が営まれることになりました。そのために祭の名も嘉吉祭（毎年10月第2日曜日）となりました。そして御神体の帰座を喜んだ一山の人々が多武峰の秋の収穫物をととのえて供えた神饌を百味の御食といいます。画像はその一部です。



## 授与品

授与品の発送も致します。ご希望の方は電話 FAX 等でお申し込みください。

TEL.0744-49-0001 FAX.0744-49-0236

ホームページからもお申し込みいただけます。 <http://tanzan.or.jp>

<p>芸守</p>	<p>三方にらみ守 (厄除)</p>	<p>勝守</p>	<p>アンラ鈴</p>
<p>こどもまもり</p>	<p>交通安全ステッカー</p>	<p>足守</p>	